

ってもいいところに気がついていたのでね、Bさんに、まず最初に言ってもらおう。はい。

B 権八は、自分ののこぎりが切れないと、藤六ののこぎりとりかえてもらいながら、藤六に言って、おらの切ったえだも、みんなおまえがしょって山をおりるんだぞ、なんて言って、権八は、ずうずうしい人だと思った。

佐藤 ああ、なるほど。そこから、ずうずうしいみたいだと思ったのね。よく読みとれましたね。これなんだった。(板書を指しながら)これがわかるのね……。他に、……Yさん。

Y わたしもBちゃんと同じところから、悪がしこいところがあると思った。

佐藤 ああ、悪がしこいというのもわかった。

(略)

3. 観点No 5, C児に対するはたらきかけを中心として

※ここでは、C児へのはたらきかけを計画していたが、状況により、C児へのはたらきかけは行わず、OやHへのはたらきかけを中心に学習が展開されていった。

佐藤 はい。じゃ、本をおろして。さあ、どこでもいいよ。権八のこんなところ、藤六のこんなところがわかったという人。あとの2つの場面からね。はい、見つけた人、手をあげてごらん。

児童たち (14~15名挙手)

佐藤 はい、手を下ろして、O君、どこか見つけた。じゃ、O君、発表して下さい。

O ばか言え。自分のものは自分でさがすのがあたりまえだ。さあ、早うはいらんか。というところが、権八が自分で落としたのに、藤六に取らせようとしていてずるい。

佐藤 ずるいなあ。ええと、……じゃね、この時間まだしゃべっていない人がいるか。先生見ていてね。O君まだしゃべっていないなあと思ったからね。O君どうなんだいと聞いてみたらね、わかるんだって、今もちゃんと発表したもんね。

(略)

佐藤 うるしを見つけた場面のあたりで、権八の性格がわかるころはないか。

児童たち (3名挙手)

佐藤 Hさんの手がすごいね。がんばっているね。ピンと指が伸びていて、発表したがつている手だね。(児童たち笑声) はい、Hさん。

H はい。せりふ40番の「おまえ、このうるしのこと、だれにも告げちゃならんぞ。」のところから、欲ばりな人だと思います。

佐藤 ああ、欲ばりなあ。じゃ、どうして、だれにも告げちゃならんぞ、なんて言ったの。

H それは、他のものには、うるしのことを教えないでにおいて、藤六と自分の二人でうるしをとろうと思って、だれにもつけてはだめだと言ったの。

佐藤 そうね。だから欲ばりね。

(略)

4. 観点No 7, D児に対するはたらきかけを中心として

(略)

佐藤 じゃね。こんどは、D君の権八とね……。藤六は、だれがいいかな……。Eさんか、Eさんは、きょうは、かぜをひいていて元気がなかったけどね。ようやく元気がでてきたから、藤六をやってみて。

DとE (権八と藤六になって、部分朗読)

佐藤 はい。(児童たち全員拍手) うまくできたね。ほんとはね、きのう、グループで朗読したのでね。きのうの反省を生かして、きょうもグループでやってもらおうと思ったんだけどね。時間がたりなくなっちゃったなあ。

(略)

事後研究会での考察など

1. 観点No 1, A児に対するはたらきかけについて

・A児は学力が劣り、気が弱いために、ほとんどみんなの前で自分の考えを述べられない児童といえる。本時では、このA児に対してはたらきかけを意図したわけである。授業では、自信がないためにほとんど声にならない状態で苦しんでいるA児のそばによって、辛抱強く待ち、やさしく考えを聞き出し、発表させようとした教師のはたらきかけは、妥当であった。さらに、全員には聞こえ